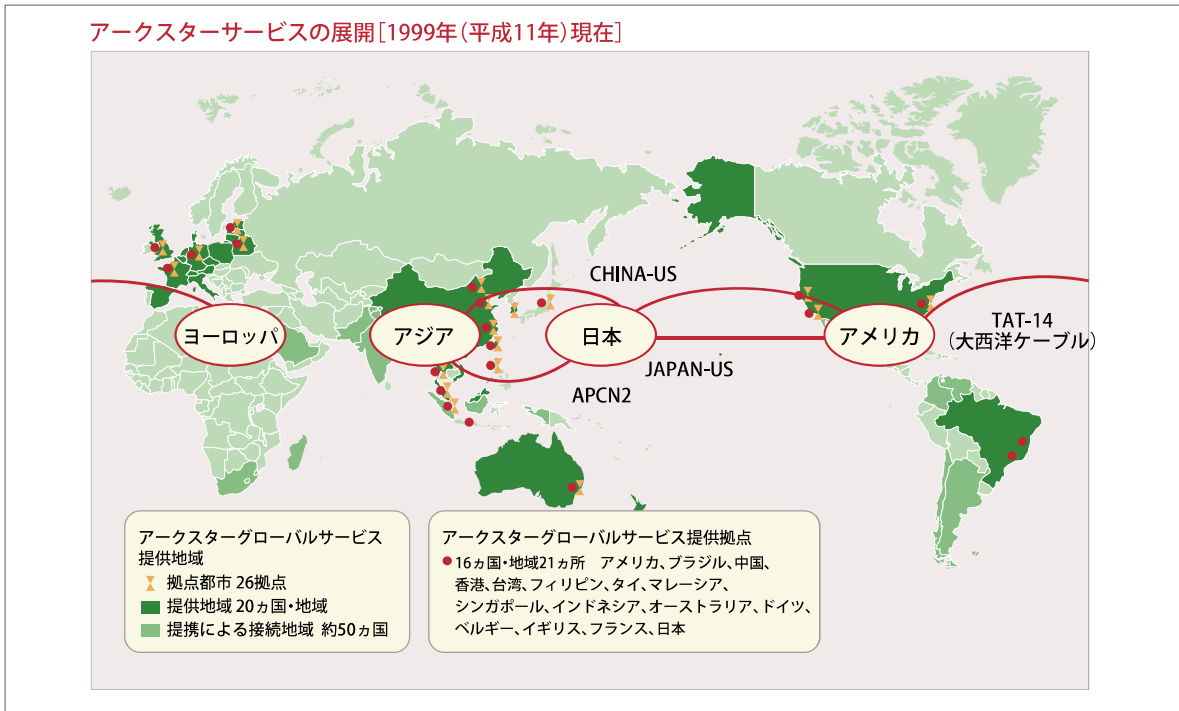


図表3-2-2 ▶アークスターサービスの展開(1999年)



出所：NTT『NTTグループ社史 [1995-2005]』（2006年3月）

図表3-2-3 ▶NTTドコモの主な海外投資（2000年以降）

出資先	出資額	現状
KPNモバイル（オランダ、2000年）	約40万ユーロ（約5,000億円）	2005年撤退
Hutchison 3G UK（イギリス、2000年）	約12億ポンド（約1,900億円）	2007年撤退
AT&Tワイヤレス（アメリカ、2000年）	約98億ドル（約1兆792億円）	2004年撤退
KGテレコム→FET（台湾、2001年）	約680億円	2023年撤退
Robi Axiata（バングラデシュ、2008年）	約370億円	2020年撤退
TTSL（インド、2009年、2014年）	2009年：約2,640億円 / 2011年：約146億円	2017年撤退

出所：各種資料より情報通信総合研究所作成

ぐ第2位であり、Arcstar サービス等を展開するうえで重要な拠点となった。

(2) 欧米・アジアでの拠点整備

2000年代に入ると、NTTコミュニケーションズは、Arcstar ブランドによる企業向けIP-VPNを軸に欧米・アジアに拠点網を拡大した。国際専用線や広域イーサネットをはじめとした多様なメニューを取り揃え、パケットにラベルを付けて高速転送を実現するネットワーク技術であるMPLS (Multi Protocol Label Switching) やIP-VPNの先進機能を提供するなど、世界規模でのWAN構築ニーズに応えた。

一方、北米や欧州、アジア各地でデータセンターを展開し、Nexcenterブランドのグローバルコロケーションサービスも立ち上げた。こうした事業拡張の背景には、当時成長著しかったインターネットやクラウド需要がある。

NTTコミュニケーションズは企業の海外拠点とのネットワークやデータ保管を一手に請け負うことで、国際的にも存在感を高めていった。

2-3. NTTドコモの海外モバイル事業

(1) W-CDMA/iモードの国際標準化とライセンス

NTTドコモは国内最大の移動通信会社として誕生したが、1990年代後半から2000年代初頭にかけて、W-CDMA (3G) やiモードの技術を軸に海外市場への参入を図っていた。W-CDMAの国際標準化活動や、iモードの欧州・アジアへのライセンス供与を通じて、モバイルインターネット時代の先行者として成功例も得た。

しかし、iモードはライセンス先キャリアが現地で大き